

桑新品種「わせゆたか」の特性

(蚕試 栽桑部)

1. 背景とねらい

近年、多くの3倍体桑品種が登場した。これらの品種は、多収であるという優れた形質を持つが、岩手県の気象条件では晩秋蚕期以降の葉質の硬化が早いことなどもあり、広く普及するには至っていない。そこで、本年度に登録された桑新品種「わせゆたか」が晩秋蚕期以降の葉質などの面で優れた特性を持つ品種なので紹介する。

2. 技術内容

1) 来歴

昭和50年、蚕糸試験場中部支場（現在、蚕糸・昆虫農業技術研究所松本支所）において「五郎治早生」を雌親、「しんいちのせ」を雄親として交雑して得られた実生苗から選抜された、カラヤマグリ系の2倍体品種である。

2) 特性

(1) 生態的、形態的特性

春の発芽が極めて早く、春蚕期における新梢長、開葉数は「あおばねずみ」を上回る。葉は、全縁から4裂葉で厚く、光沢があり縮皺は少ない。夏切後の再発枝数、枝条伸長は「あおばねずみ」を上回る。晩秋蚕期の葉質の硬化は遅い。

(2) 収穫量

岩手蚕試で行った普通植試験では、「あおばねずみ」に及ばなかったが、山梨県で行われた密植試験では「しんいちのせ」を上回った。

(3) 耐病性

萎縮病抵抗性は「あおばねずみ」より強く、「しんいちのせ」並み、桑裏うどんこ病抵抗性は圃場観察の結果から強いと考えられる。胴枯病抵抗性については現在、試験中である。

(4) 飼料価値

春蚕期、晩秋蚕期ともに飼料価値は高く、特に晩秋蚕期は桑裏うどんこ病も少なく葉質の硬化も認められないため、繭重、繭層歩合、繭収量など「あおばねずみ」を上回る。

3) 適応地域および作型

少雪・寒冷地帯（積雪量0.5m未満）に適応し、春秋兼用および夏秋専用として密植桑園および普通植桑園に適する。

3. 指導上の留意事項

1) 胴枯病抵抗性に関する現地試験の結果が得られるまでは、積雪量0.5m以上、根雪期間50日以上地域では栽植を避ける。

- 2) 発芽が早いので、晩霜の常習地域では栽植を避けるなど、霜害に対する注意が必要である。
- 3) 葉質の硬化が遅いので、晩秋蚕期以降は硬化が早い品種の収穫を終えてから収穫する。

4. 試験成績概要

表1 春の発芽（脱苞）月日

桑品種	植付3年目	植付4年目	植付5年目	植付6年目
あおばねずみ	5月1日	4月29日	5月1日	5月9日
わせゆたか	4月20日	4月21日	4月24日	4月27日

*) 試験期間：平成2～5年

表2 年間収量（春蚕期：新梢量，晩秋蚕期：葉量，単位：kg/10a）

	桑品種	植付1年目	植付2年目	植付3年目	植付4年目	植付5年目	植付6年目
普通植	あおばねずみ	—	—	2,734	2,053	1,747	1,822
	わせゆたか (指数)	—	—	2,427 (89)	2,023 (99)	1,673 (95)	1,569 (86)
密植	しんいちのせ	732	2,653	1,876	3,219	—	—
	わせゆたか (指数)	735 (100)	2,863 (117)	2,383 (127)	3,380 (105)	—	—

*) 栽植密度：普通植 833本/10a，密植（山梨蚕試S63～H3年）2,500本/10a

表3 植付6年目壮蚕飼育（4～5齢）試験成績

蚕期	蚕品種	桑品種	繭調査（♀♂平均）			4齢起蚕 1万頭当り 普通繭収量	給桑量100kg当り (全芽・葉量) 普通繭収量
			繭重	繭層重	繭層歩合		
春蚕期	陽光×嶺玉	あおばねずみ	1.92g	48.0cg	25.1%	17.9kg	5.1kg
		わせゆたか	1.92	47.2	24.8	18.8	5.4
晩秋蚕期	錦秋×鐘和	あおばねずみ	1.73	42.6	24.9	16.6	5.5
		わせゆたか	1.98	48.9	25.2	18.6	6.2